

国語教育講座 植西 浩一 特任准教授



国語科の評価改善・評価改革のための研究



キーワード 評価観/ 達成感・成就感/ 指導と評価の一体化/ 自己評価/ 形成的評価

どのような研究をなぜ行っているか

「国語は、勉強してもしなくても成績はあまり変わらない」、「授業では自由に自分の考えを言いなさいと言われるけれど、テストの正解は決まっている」、学習者からよく聞かれる言葉です。前者は、学習成果が評価に反映されていないという訴えであり、これが達成感や成就感を得にくい状況を生んでいます。後者は、指導と評価の乖離に対する抗議の言葉です。「指導と評価の一体化」の必要性が叫ばれ、様々な取り組みが重ねられてきたのは周知のとおりです。「評価規準」も学習指導案に明記されるようになりました。にも関わらず、評価が学習者を励まし育て、達成感を抱かせるものになっていない状況が今もなお、多くの教室で見られます。教員の側からは、目標つぶしのような評価に追われ、ゆとりを持って子供たちに向き合うことができないという嘆きも聞こえてきます。子供たちや教師の願いに寄り添った国語科評価の改善・改革は今なお喫緊の課題なのです。私は、国語科評価の改善・改革のために、次のような事柄について、授業実践との往還を図りながら研究を進めています。

- 達成感・成就感が得られ、自己肯定感を高められるような学習者を励まし育てる評価の在り方
- 自身の成長の跡や改善すべき点を把握でき、自己教育力を育む自己評価法の開発
- 外からは見えにくい学習者の情意や聞く力、思考・判断をとらえる評価方法の開発
- 学習成果を適切に測定するための評価方法の工夫
- ICTも活用したより簡便で学習者にも指導者にも負担の少ない持続可能で効果的な評価方法の工夫
- 「教材を教えるのか・教材で教えるのか」の課題を解決する、目標設定・学習活動・評価の在り方

評価が変われば授業が変わる、私は、授業実践を通してそれを実感してきました。かつて「自己評価は、思想であると同時に方法である。思想としての自己評価が評価観と学習観を変え、方法としての自己評価が、学びの姿を変える」と記しましたが(拙著『国語科自己評価法の開発』明治図書 1997)、これは「自己評価」のみならず「評価」全般に当てはまるとあらためて感じつつ研究に取り組んでいます。

研究成果をどのように活用し、どのような貢献ができるか

本研究の成果は、次のような場で活用していただければと考えています。

- 評価改善のための校内研修
- 長期休暇等を利用した評価についての教員研修
- 評価についての公開講座

国語科評価の改善・改革は、授業をより楽しく達成感の得られるものにするために、そして一人ひとりの子供たちの言葉の力をより大きく伸ばすものにするために欠かせない取り組みです。教育現場で日々、言葉の力を育てるためにご尽力されている先生方のお手伝いできれば幸いです。

これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

- ・奈良県国語教育研究会研究委員会指導 2006~2007
- ・佐賀県吉野ヶ里町立三田川中学校校内研修指導 2013
- ・広島県尾道市立栗原中学校校内研修指導 2015~2016
- ・広島県三原市立第四中学校校内研修指導 2017~2018
- ・広島県安芸高田市立八千代小学校校内研修指導 2018